

天文学と プラネタリウム

第25回



www.tenpla.net

星ナビ4月号でも紹介した“ミタカ星空プロジェクト”のアイデアが、平成基礎科学財団などが主催する第1回“楽しむ科学コンクール”で、見事当選いたしました。このミタカ星空プロジェクトを中心として、さまざまな地域における天文普及を、もっと平たく言えば、宇宙を楽しむための活動を提案・実行していきたいと考えています。今回のコラムでは、そのアイデアについて紹介しましょう。

車のいろは宙のいろ

「昨日の晩、M100に超新星が出たってえ知ってますか、お客さん？え、超新星を知らない？超新星ってのはですね、星が一生の最後に起こす大爆発で…」三鷹駅や調布駅の駅前でドアを開けてお客さんを待つタクシー。一歩足を踏み入れると、そこは宇宙の世界。運転手さんが、最新の天文ニュースについて簡単に解説してくれます。天プラのメンバーがタクシー無線を通じて最新の天文ニュースを逐一流すことで、三鷹地区でタクシーに乗るとなぜか天文ニュース

が聞けるというシステム。「え？もっと詳しい話が知りたい？じゃあ、お客さん、このまま国立天文台までお連れしますね…」びびっと来たタクシー会社の皆様、ぜひご連絡を。

サイエンス××

このコラムでも何回か取り上げていますが、“サイエンスカフェ”なるイベントは、“カフェやパブのような気安い場所で、科学を楽しむ”ことを目的としています。しかし、ちょっと待って下さい。カフェやパブはもちろん広く浸透しているとは思いますが、もっと気安い場所が日本にはいっぱいあると思いませんか？そこで私たちが提案したいのは、“サイエンス銭湯”。えらい先生も一枚取っ払えばただの人です。「なーんだ、学者さんつつても、同じじゃん」と思って気楽に科学を楽しんでもらえること、請け合いです！難点は、講師のなり手が少ないかもしれないのですが…。他にも、蕎麦をすすりながら科学を楽しむ“サイエンスソバ”とか、いくらでも応用がありそうですね。さあ、びびっと来た方はご連絡を！

今月のお題

地域に溶け込む天文学

いま天プラ的に熱いのは、地域に根ざした天文学普及活動。今回は実現してみたい怪しいアイデアを紹介しちゃいます。

■ミタカ星空プロジェクト始動！



高梨直紘（東大D2／天文学教育研究センター所属）
平松正顕（東大D2／国立天文台ALMA推進室所属）



天文イベントなんかで配れるちょっとしたお土産なども色々企画中です。例えば、上の写真は天プラバッチですが、こんなちょっとしたグッズもどンドン作ってみたいですね。他にも、惑星クッキーやクレーターを正確に再現した月煎餅など、天文お菓子なんかも作りだそうと目論見中です。



野辺山45m電波望遠鏡で観測中の平松(左)。はるか宇宙を旅してきた電波が今そこに。お寺にあるプラネとして有名な「プラネターリウム銀河座」でキリンと戯れる高梨(右)。これでも博士課程。